

# 再評価チェックリスト

## 1 事業概要

事業の名称	東京都市計画道路 放射第25号線	評価該当要件	10年間継続	1回目
実施主体	東京都(建設局)	事業所管部署	道路建設部街路課	
都市計画決定(当初)	昭和20年度	事業認可年度(当初)	平成25年度	事業期間: H25年度～令和元年度
都市計画決定(最新)	昭和38年度	事業認可年度(最新)	令和元年度	事業期間: H25年度～令和7年度
事業箇所	新宿区北町～新宿区津久戸町	事業規模	評価対象区間延長 830m	
事業概要	放射第25号線は、新宿区新宿七丁目から文京区本郷二丁目に至る延長約4.7kmの都市計画道路である。このうち、本整備区間は新宿区北町から同区津久戸町までの延長830mの区間である。本事業区間の整備により、区部における放射方向の道路ネットワークが強化され、交通の円滑化が図られるとともに、歩行者や自転車の通行の安全性が向上する。また、緊急輸送道路としての機能を強化するとともに、地域の安全性・防災性が向上する。さらに、電線類の地中化や街路樹の植栽により、良好な都市景観を創出される。			

## 2 社会経済情勢等の変化(事業の必要性等に関する視点)

社会経済情勢等の変化(認可時点から変化がある場合は変化・変更内容欄に記載)	
(社会経済情勢の変化) 本路線周辺の平成27年度の現況交通量は、平成22年度と比較して、横ばいとなっている。 ○現況自動車交通量(道路交通センサスによる) 【放25(大久保通り)】 平成22年度:9,496台/12h、平成27年度:9,427台/12h 【放25】 平成22年度:9,098台/12h、平成27年度:9,114台/12h (関連する他事業等の進捗状況の変化・変更内容) 【放射第25号線(若松町)】 ・平成22年度に事業着手しており、用地取得は79%で工事は未実施 【環状第3号線(弁天町)】 ・平成20年度に事業着手しており、用地取得は98%で工事は実施中 【環状第3号線(薬王寺)】 ・平成14年度に事業着手しており、用地取得は99%で工事は実施中 【環状第4号線(夏目坂)】 ・平成29年度に事業着手しており、用地取得は11%で工事は未実施	

## 3 事業の投資効果(事業の必要性等に関する視点)

定量的効果 B/C	<b>2.9</b>		
現在価値化総便益額(B)	365.4億円	現在価値化総費用額	125.1億円
走行時間短縮便益	335.0億円	工事費	9.2億円
走行経費減少便益	28.0億円	用地費	109.7億円
交通事故減少便益	2.4億円	維持管理費	6.2億円
定性的効果			
<交通>	・交通渋滞の解消 ・物資流動円滑化への寄与 ・バスの定時性 ・迂回交通の減少	<<らし>	・土地利用の転換・高度化 ・商業・産業の活性化 ・公共施設へのアクセス向上
<景観>	・都市景観の向上	<安全>	・交通事故の減少 ・バリアフリー化 ・自転車や歩行者のための空間確保
<防災>	・緊急車両の走行 ・延焼遮断 ・災害時の避難路の確保		

## 4 事業の進捗状況(事業の必要性等に関する視点)

事業費の執行状況 (R3年度末時点)			
	用地費	工事費	合計
全体事業費	12,000百万円	1,100百万円	13,100百万円
執行済額	8,092百万円	48百万円	8,140百万円
(執行率)	67.4%	4.4%	62.1%
用地取得状況 (R3年度末時点)			
取得予定面積(A)	既取得面積(B)	用地取得率(B/A)	
10,200㎡	3,156㎡	30.9%	
一定期間を要した背景、地元の理解・協力の状況			
・権利者多数の区分所有マンションが多い上、借家等も複数存在しており、権利者が多いことから、用地折衝に時間を要している。 ・近隣の移転を希望する方もおり、移転先選定に時間を要している。			
事業の進捗状況・残事業の内容			
・未取得用地の早期取得を目指し、折衝を進めている。 ・用地取得状況及び関係機関との協議状況を踏まえて、順次工事を実施していく。 (排水管工事、企業者工事、電線共同溝工事、街路築造工事等)			

## 5 事業の進捗の見込みの視点

事業の実施のめど、進捗の見通し等
・引き続き、未取得用地の早期取得を目指し、折衝を進める。 ・引き続き、用地取得状況及び関係機関との協議状況を踏まえて、順次工事を実施していく。 (排水管工事、企業者工事、電線共同溝工事、街路築造工事等)

## 6 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性
(新工法の採用など)(事業手法、施設規模等の見直しの可能性)
・一般的な街路築造工事であるため、施工にあたって新工法、事業手法、施設規模等を見直す可能性は極めて少ない。
その他、日々の事業執行におけるコスト縮減等の取組み
・施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用を行っていく。 ・無電柱化にあたっては、東京都無電柱化計画(R3.6改定)を踏まえ、新材料等を積極的に活用し、コスト縮減に取り組む。

## 7 対応方針(原案)

総合評価	(事業の必要性等に関する視点) ・放射方向の道路ネットワークが強化され、交通の円滑化が図られるとともに、歩行者や自転車の通行の安全性が向上する。 ・緊急輸送道路としての機能を強化するとともに、地域の安全性・防災性が向上する。 ・電線類の地中化や街路樹の植栽により、良好な都市景観を創出する。
	(事業の進捗の見込みの視点) ・用地は約30%取得済であり、残る未取得用地についても早期取得を目指し、折衝を進める。 ・用地取得状況及び関係機関との協議状況を踏まえて、順次工事を実施していく。 (排水管工事、企業者工事、電線共同溝工事、街路築造工事等)
対応方針(原案)	・放射第25号線は、周辺地域の交通渋滞緩和、延焼遮断帯や避難路としての機能、快適で安全な歩行空間、良好な都市景観の創出の観点から、事業の必要性が高く、早期の効果発現を図ることが適切。 ・中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。
	<b>継続</b>